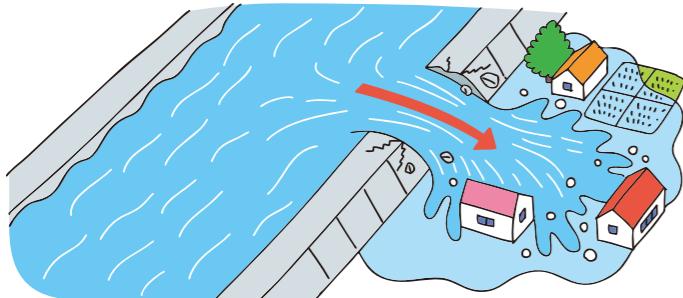


洪水

氾濫の種類

外水氾濫

河川の堤防から水が溢れ、または堤防が決壊して家屋や田畠が浸水すること。



内水氾濫

堤防から水が溢れなくても、河川へ排水する川や下水路の排水能力の不足などが原因で、降った雨を排水処理できなくて引き起こされる氾濫。



雨の降り方と強さ

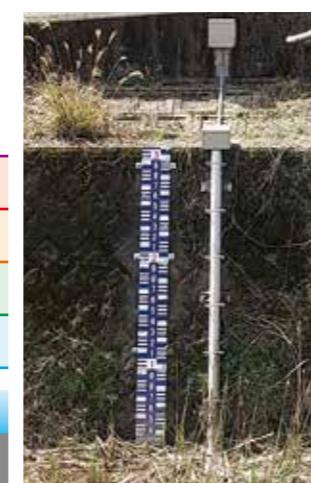
1時間 雨量	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上	110mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨	記録的短時間大雨情報
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨(気象台が発表)

※今いる場所で雨が降っていないなくても、周辺や山間部で大雨が降っていたり、雷鳴が聞こえたりした場合は、急な河川の増水や局地的な大雨が降るおそれがあるため、気象情報をよく確認してください。

河川の基準水位

※洪水浸水想定区域内にお住まいの方は特に市からの情報に注意してください。

今泉
(今泉川)



堤防

▼堤防を越える

▼氾濫危険水位 破堤や浸水により氾濫が起こる可能性のある水位 **2.97m**

▼避難判断水位 避難の目安となる水位 **2.72m**

▼氾濫注意水位 水防団が出動する目安となる水位 **2.72m**

▼水防団待機水位 水防団が準備する目安となる水位 **2.08m**

危機管理型水位計

洪水時の水位観測に特化した水位計で、河川の水位が上昇した時に自動的に作動し水位を観測します。

(平常時は1日1回のみ)

※「川の水位情報」から確認できます。

<https://k.river.go.jp>



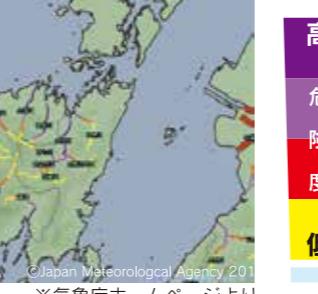
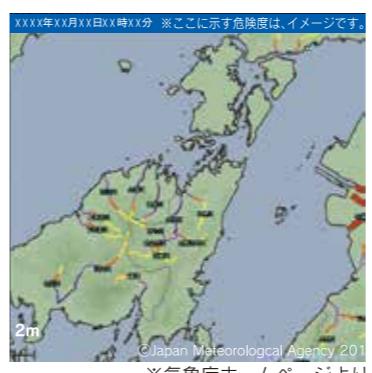
危機管理水位計(合津川)

危険度分布を確認しましょう(洪水編)



洪水警報の危険度分布 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

中小河川の洪水災害発生の危険度の高まりを、5段階に色分けして示す情報です。避難にかかる時間等を考慮して、3時間先までの予測値を用いており(10分ごとに更新)、洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。

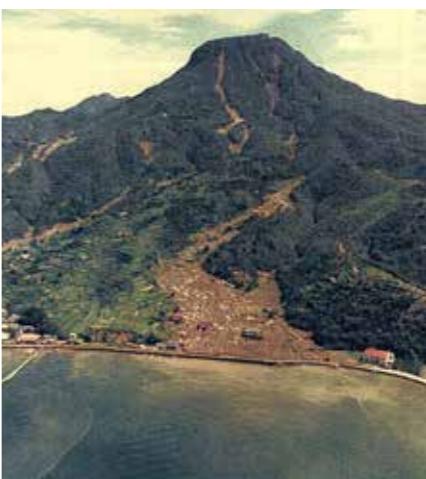


色が持つ意味	説明	避難情報の目安	相当する警戒レベル
極めて危険 すでに土砂災害警戒情報の基準に到達	流域雨量指数の実況値が過去の重大な洪水災害発生時に匹敵する値にすでに到達。重大な洪水災害がすでに発生しているおそれが高い極めて危険な状況。	避難指示(緊急)	一
非常に危険 3時間先までに警報基準を大きく超過した基準に到達する予想	水位周知河川・その他河川がさらに増水し、今後氾濫し、重大な洪水災害が発生するおそれが高い。水位が一定の水位を越えている場合には速やかに避難を開始する。	避難勧告	4相当
警戒(警報級) 3時間先までに警報基準に到達すると予想	水位が一定の水位を越えている場合には、避難の準備が整い次第、避難を開始する。高齢者は速やかに避難を開始する。	避難準備・高齢者等避難開始	3相当
注意(注意報級) 3時間先までに注意報基準に到達すると予想	ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。	一	2相当
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	一	一

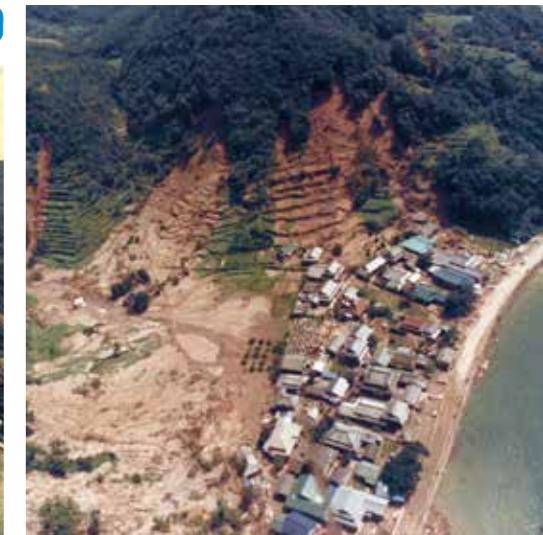
上天草市および周辺に起きた過去の災害(洪水)

昭和47年7月豪雨(天草大水害)

昭和47年7月3日から6日にかけて天草諸島・上島の八代海沿岸部を中心に局地的な大雨が降りました。龍ヶ岳町では、最大時間雨量130ミリ、総雨量526ミリを観測し、松島町、姫戸町、龍ヶ岳町、倉岳町(現天草市)などでかけ崩れや土石流が発生しました。この豪雨により、熊本県内で123名の死者・行方不明者を出し、577戸の建物が全壊するなど、被害額は480億円に及びました(熊本県地域防災計画より)。



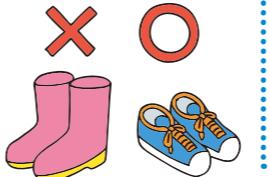
災害発生後の状況(龍ヶ岳町 大道地区)



災害発生後の状況(龍ヶ岳町 高戸地区)

避難のポイント(洪水編)

長靴は水が入って歩きにくく危険です。裸足やスリッパも禁物です。なるべく運動靴をはきましょう。



大雨時の田んぼの見回りはやめましょう。



垂れ下がった電線には近づいたり、触ったりしないようしましょう。



足元が見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を杖でつきながら慎重に歩きましょう。



橋を渡らないようにしましょう。



土砂災害

土砂災害防止法について

土砂災害防止法(正式名称は「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」)は、
土砂災害(がけ崩れや土石流など)から国民の生命・身体を守るための法律です。

土砂災害は毎年のように全国各地で発生しており、私たちの暮らしに大きな影響を与えています。

そのため、**土砂災害が発生するおそれのある地域を明らかにし、**

危険の周知、避難体制の整備、住宅などの建築制限などを推進しています。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

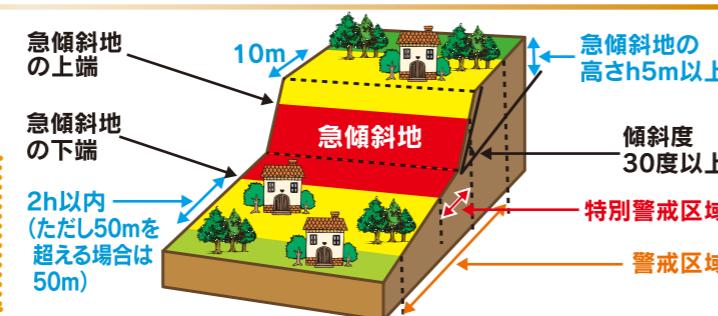
がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、特定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

土砂災害の種類とその前兆現象

急傾斜地の倒壊 (がけ崩れ)

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。

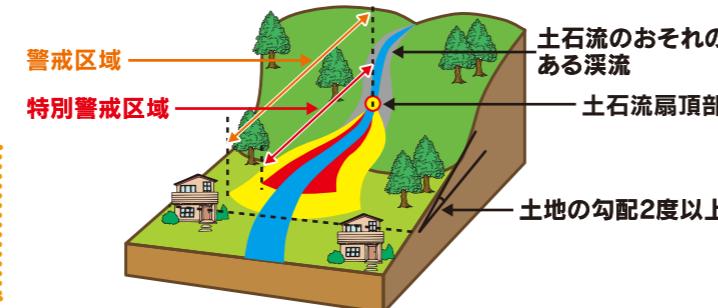
- がけに割れ目が見える
- がけから水が噴出する
- がけから小石がバラバラ落ちてくる



土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって、一気に下流へと押し流される現象です。

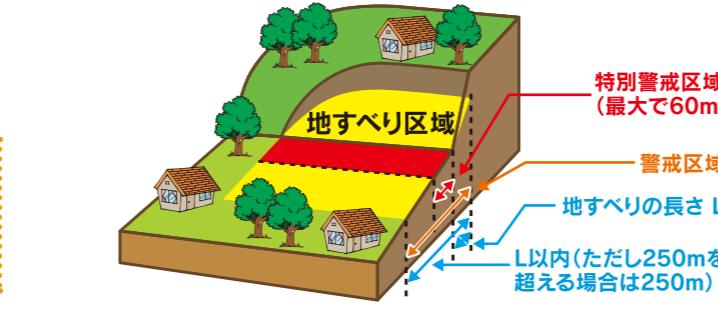
- 山鳴りがする
- 川の流れが濁り、流木が混ざりはじめる
- 雨が降り続いているのに川の水位が下がる



地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によって斜面下方に移動する現象です。

- 地面にひび割れができる
- 沢や井戸の水が濁る
- 斜面から水が噴き出す



土砂災害警戒情報

大雨警報発表後も雨が降り続き、土砂災害の発生の危険性が高まったときに、熊本県と熊本地方気象台が共同で発表します。土砂災害警戒情報が発表されたときは『いつ土砂災害が起きてもおかしくない』という非常に危険な状態です。情報は市町村単位で発表されるので、住民のみなさんの自主避難の判断に活用できます。



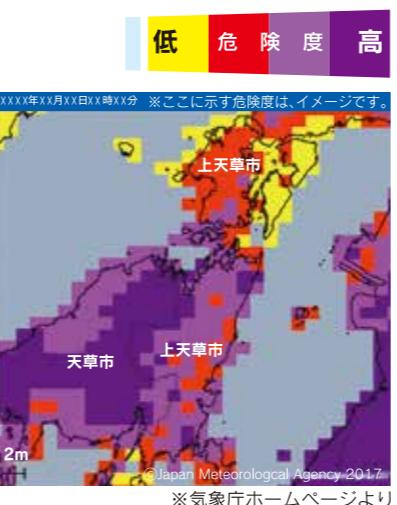
危険度分布を確認しましょう(土砂災害編)

大雨警報(土砂災害)の危険度分布
(土砂災害警戒判定メッシュ情報)

<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>



土砂災害の危険度の高まっている地域を1km四方(メッシュ)の領域ごとに5段階で色分け表示しています。避難にかかる時間等を考慮して、2時間先までの予測値を用いており(10分ごとに更新)、大雨警報(土砂災害)、土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。

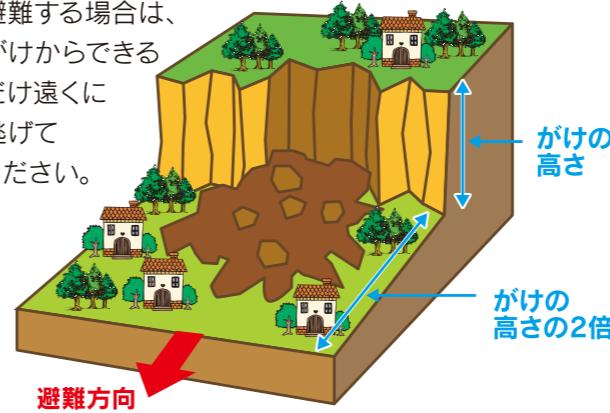


色が持つ意味	説明	内閣府のガイドラインで発令の目安とされる避難情報	相当する警戒レベル※2
極めて危険 すでに土砂災害警戒情報の基準に到達	過去の重大な土砂災害発生時に匹敵する極めて危険な状況。命に危険が及ぶ土砂災害がすでに発生していてもおかしくない。この状況になる前に土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所への避難を完了しておく必要がある。	避難指示(緊急)	4相当
非常に危険 2時間先までに土砂災害警戒情報の基準に到達すると予想	命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況。速やかに土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所への避難を開始する。	避難勧告	
警戒(警報級) 2時間先までに警報基準に到達すると予想	避難の準備が整い次第、土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所への避難を開始。高齢者等は速やかに避難を開始する。	避難準備・高齢者等避難開始	3相当
注意(注意報級) 2時間先までに注意報基準に到達すると予想	ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。特に、危険度分布をこまめに確認する。	—	2相当
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	—

避難のポイント(土砂災害編)

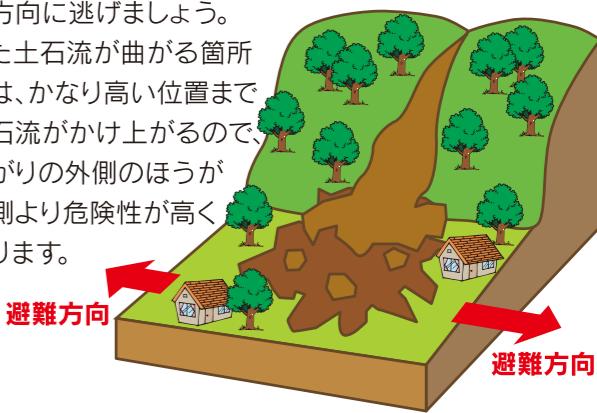
がけ崩れのおそれがある場合

一般的に、がけ崩れの土砂は、地面が平らなところはがけの高さの2倍の距離までくるといわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くに逃げてください。



土石流のおそれがある場合

渓流沿いの低い土地から離れてください。土石流のスピードはとても速いので、土石流を見たら、流れに直角の方向に逃げましょう。また土石流が曲がる箇所では、かなり高い位置まで土石流がかけ上がる所以、曲がりの外側のほうが内側より危険性が高くなります。



他の危険区域を通らない

避難する際は、土砂災害警戒区域等(イエローゾーン・レッドゾーン)となるべく通らないようにしましょう。ハザードマップで区域を確認してください。

やむをえず屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。

雨がやんだ後も注意

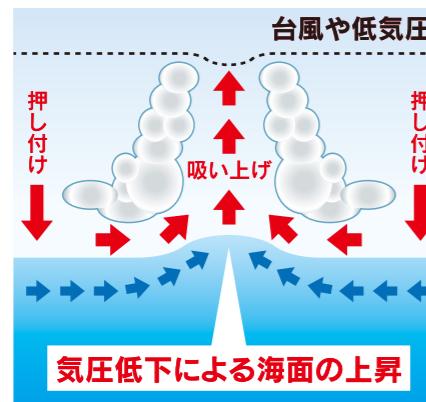
これまで降った雨が土の中に残っています。雨がやんでも大雨警報が発表されている間は、土砂災害が発生するおそれがあるので警戒しましょう。

高潮

高潮の起こる仕組み

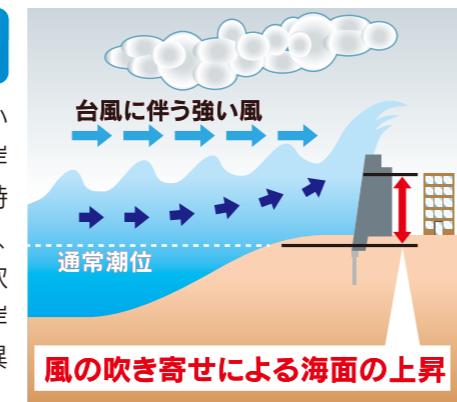
吸い上げ効果

台風や発達した低気圧の中心が接近すると、中心付近の気圧が低下し、海面が吸い上げられて上昇します。



吹き寄せ効果

台風による強い風が沖から海岸に向かって長時間吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が異常に上昇します。



高潮の被害を受けやすい場所

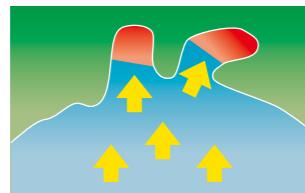
河口のまわり

高潮の被害と河川の氾濫など、危険が重なる。



湾の奥

押し寄せた海水がたまり、湾内の水位が上がる。



ゼロメートル地帯

平均海水面より低い土地は浸水の危険性が高い。



急に深くなる海底地形

押し寄せた波が海岸の近くで一気に高くなる。



上天草市および周辺に起きた過去の災害(高潮)

平成11年9月台風18号(不知火高潮災害)

平成11年9月24日の早朝、台風18号が天草下島付近から島原半島の南端を通過し、牛深市では最大瞬間風速66.2m/sを記録するなど、暴風が猛威をふるいました。さらに、大潮で満潮時刻に近い時間に県南西部に接近したことから、湾奥に位置する不知火町(現宇城市)松合地区周辺を中心に高潮による被害が発生しました。不知火町では家屋の水没により12名の死者を出すなど、県下各地で死者16名、負傷者315名の人的被害をはじめ、多数の住家に被害を及ぼしました(熊本県地域防災計画より)。



災害発生時の状況
(龍ヶ岳町 榛島地区)

避難のポイント(高潮編)

- 台風接近の数日前から気象情報や市からの情報に注意しましょう。



主な情報入手・配信先

- 危険を感じたら早めに行動しましょう。

昼間に台風の強風域が近づいている場合や、夜間から明け方にかけて台風の強風域が最接近すると予想される場合は、市から避難情報を呼びかけます。



●気象庁ホームページ・台風情報
●緊急速報メール

- 海沿いへ様子を見に行くのはやめましょう。

高波に飲み込まれるおそれがあります。



●地上デジタル放送
●防災・気象情報のスマートフォンアプリなど

津波

津波の特徴

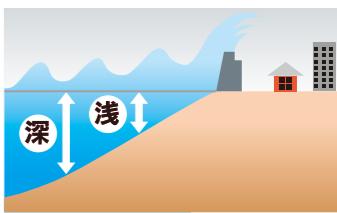
ジェット機並みの速さ

津波の速さは海が深いほど早く、津波が見えてからでは逃げ切ることができません。



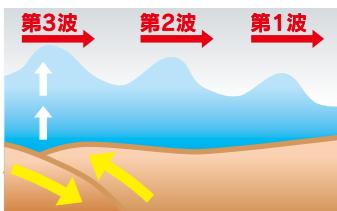
想像以上の高さ

津波の高さは海岸の地形等で変わります。東日本大震災では、想像以上の津波が発生しました。



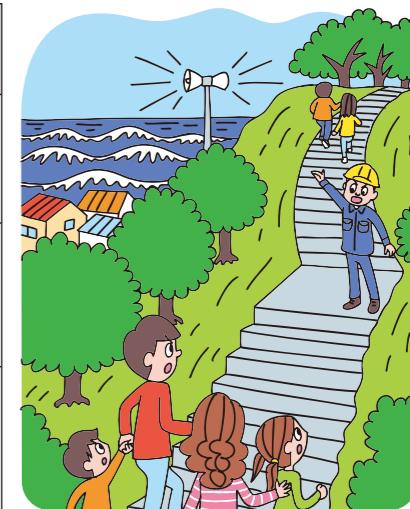
津波は繰り返す

津波は繰り返しくるので、警報や注意報が解除されるまで沿岸部に近づかないでください。



津波に関する警報・注意報

	予想される津波の高さ		想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の場合の表現	
大津波警報	10m超(5m<高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。
	10m(5m<高さ≤10m)		
	5m(3m<高さ≤5m)		
津波警報	3m(1m<高さ3m)	高い	標高の低いところは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m(20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれます。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。



地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または、津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合は、気象庁が「津波警報(若干の海面変動)」を発表します。

避難のポイント(津波編)

小さな揺れでも油断禁物!

小さな揺れの地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れの場合、津波が来襲することがあります。



高い場所へ避難する

海岸から「より遠くへ」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



率先避難者になりましょう

率先避難とは「緊急時に避難を呼びかけつつ、自ら率先して避難すること」をいいます。率先避難者になることで、それを見ている周囲の人々に避難行動を取らせるきっかけになります。



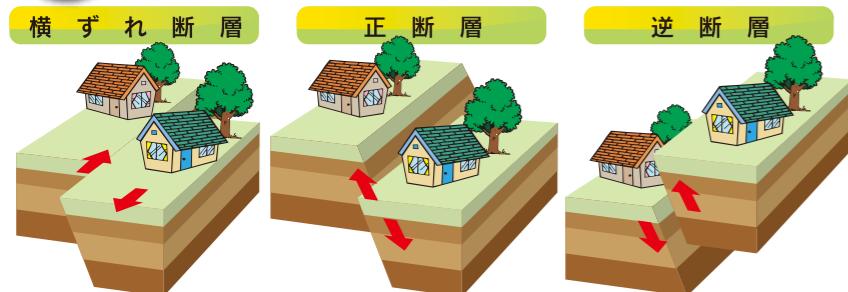
海岸や川には近づかない!

海岸はもちろん、津波は市街地よりも川を早くさかのぼりますので、できるだけ川に近づかず避難しましょう。

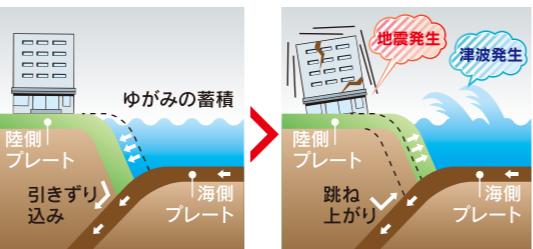


地震が発生する仕組み

活断層地震 地下にある岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで内部にゆがみのエネルギーがたまり、これが限界に達したときに、ある面(断層面)を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。



海溝型地震 陸側のプレートが海側のプレートに引きずり込まれることで境界にゆがみのプレートが元に戻ろうとして跳ね上がり、地震が発生します。



震度と揺れによる周囲の状況

- 4**
- ほとんどの人が驚く。
 - 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
 - 座りの悪い置物が、倒れることがある。



- 5弱**
- 大半の人々が、恐怖を覚え、物につかりたいと感じる。
 - 棚にある食器類や本が落ちることがある。
 - 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



- 5強**
- 物につからないと歩くことが難しい。
 - 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
 - 固定していない家具が倒れることがある。
 - 補強されていないブロック塀が崩れことがある。



- 6弱**
- 立っていることが困難になる。
 - 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
 - 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
 - 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



- 6強**
- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
 - 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
 - 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
 - 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



- 7**
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
 - 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
 - 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。



緊急地震速報が出されたら

周囲の状況に応じて、あわてずにまず身の安全を確保しましょう。

緊急地震速報は、地震の発生直後に、震源近くで地震波をキャッチし、強い揺れが始まると直前にすばやくお知らせする情報です。最大震度5弱以上が予想される場合に、震度4以上を予想した地域に、テレビやラジオ、メールを通じて、もうじき揺れることをお知らせします。緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒しかありません。その短い間に、自分の身を守ることを最優先に行動しましょう。震源に近い地域では、緊急地震速報が追い揺れに間に合わないことがあります。



地震10力条

- 1 まず自分の身を守る!**
地震の大きな揺れは1分以上。
テーブルや机の下に身を隠し、頭を保護しましょう。

- 2 素早く火の始末を!**
小さな火が、大きな火災の原因になります。
初期消火が肝心です。やけどしないように気をつけましょう。

- 3 慌てて外に飛び出さない!**
周囲の状況を確かめて、落ち着いて行動しましょう。
(瓦や看板が落ちてくるので危険です。)

- 4 戸を開けて、出口を確保!**
特に中高層住宅では、避難のための出口確保が重要です。二次災害を防ぐためにブレーカーは落として避難しましょう。

- 5 屋外では、危険な物から遠ざかる!**
ブロック塀が倒れたり、
窓ガラスや看板などが落ちてくることもあります。

- 6 百貨店・劇場などでは係員の指示に従う!**
大勢の人が集まる場所での災害は、パニックを引き起しがち。自分勝手な判断はしないこと。

- 7 自動車は「左」に寄せて停車!**
カラーラジオの情報を聞いて行動しましょう。キーは付けたまま、緊急車両の妨げにならないよう注意しましょう。

- 8 山崩れ・崖崩れ・津波に注意!**
災害が発生しそうな地域の人は、素早く避難しましょう。

- 9 避難は徒歩で、持ち物は最小限に!**
自動車を使うと、渋滞を引き起こし、消火・救助活動の妨げになります。

- 10 デマに惑わされない!**
報道機関や市・消防・警察などからの情報をキャッチしましょう。

震災時のNG行動

ガスに引火し爆発する危険があるので、火をつけない。



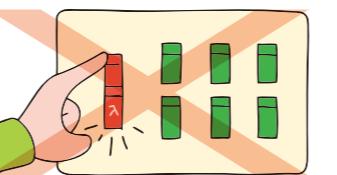
電話回線がパンクするので、発災直後に不要不急の電話の使用を控える。



ケガをする危険があるので、救出活動はひとりではなく複数で行う。



火災の危険があるので、ブレーカーをあげて通電させない。



ケガをする危険があるので、部屋の中を裸足で歩かない。



閉じ込められる危険があるので、エレベーターは使わない。



こんな場面で地震があったら

人が大勢いる施設では!

係員の指示に従い、落ち着いて行動してください。



路上にいた!

窓ガラスや瓦などの落下物からカバンなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難します。



山や崖付近では!

落石や崖崩れに注意しましょう。



車を運転していた!

徐々にスピードを落とし、左側に止め、エンジンを切る。揺れが収まるまで冷静に。カラーラジオで情報収集します。



エレベーターの中にいた!

すべての階のボタンを押し、停止した階で降りましょう。



注意 閉じ込められても無理に脱出しようとせず、非常ボタンで外部と連絡を取り救出待ちましょう。

地震ハザードマップく揺れやすさマップ

宇城市

地震ハザードマップとは

上天草市では、市民の皆様に地震発生時の揺れやすさや地域の危険度に関する情報を提供し、事前の備えに役立てていただくことを目的に、地震ハザードマップを作成しました。地震ハザードマップは、予想される揺れの大きさを表した「揺れやすさマップ」とその揺れによる建物の被害を表した「地域の危険度マップ」の2種類のマップで構成されています。

揺れやすさマップとは

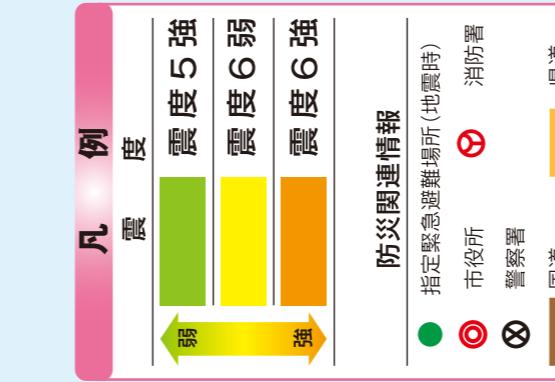
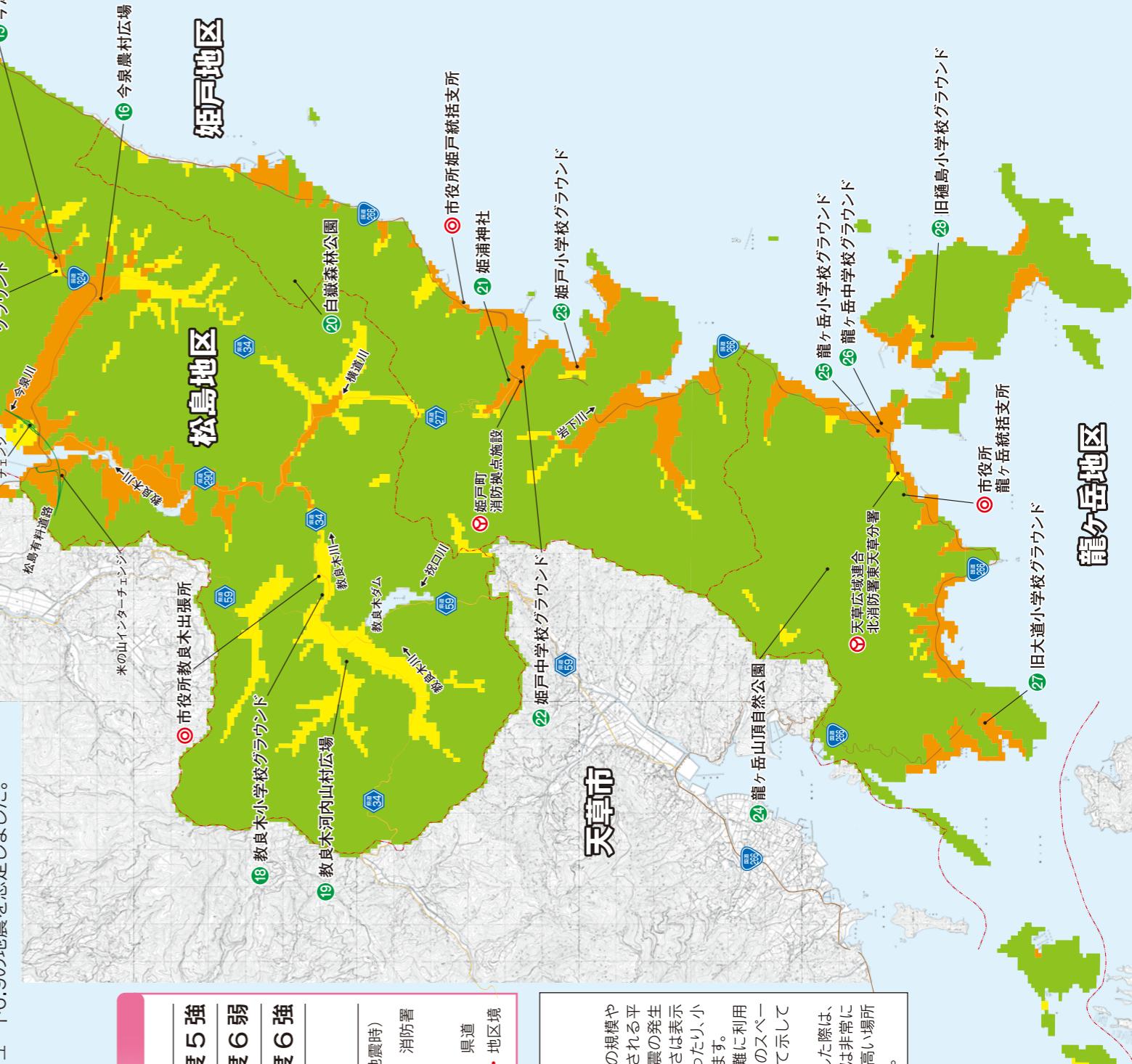
「揺れやすさマップ」とは、想定した地震が起きた時に、市の中でどのくらいの揺れの強さ(震度)になるのかを計算し、約50m四方のメッシュごとに表したもののです。ご自宅の周辺や普段からよく行くところ、よく通るところなどについて、想定されている揺れの大きさを確認してみてください。また、災害時の避難場所や地震が発生した時の対応などを家族や周囲の方と相談してみてください。

想定した地震

上天草市地震防災マップでは、市の直下を震源として地震が起きた場合を想定した「全国どこでも起こりうる直下の地震(マグニチュード6.9)」を想定地震としています。

全國どこでも起こりうる直下の地震とは

近年、新潟県中越沖地震など今まで注目されなかつた地域で大きな地震が相次いで発生しており、マグニチュード6クラスの地震を発生させる活断層は未だ確認されていないもののが多く、どこで地震が発生するかはわからぬのが現状です。内閣府の「地震防災マップ作成技術資料」では、マグニチュード6クラスの最大値としてM6.9の地震を「全国どこでも起こりうる直下の地震」と位置づけており、今回の検討でも上天草市の直下で起きるマグニチュード6.9の地震を想定しました。



ここで表示した震度は、地震の規模や震源からの距離により想定される平均的な揺れの強さであり、地震の発生の仕方によっては、揺れの強さは表示された震度よりも大きくなったり、小さくなったりすることがあります。このマップには地震時の避難に利用できるグラウンドや公園などのスペースを指定緊急避難場所として示しています。津波をともなう地震が発生した際は、海沿いから離れた高い場所を指して避難してください。

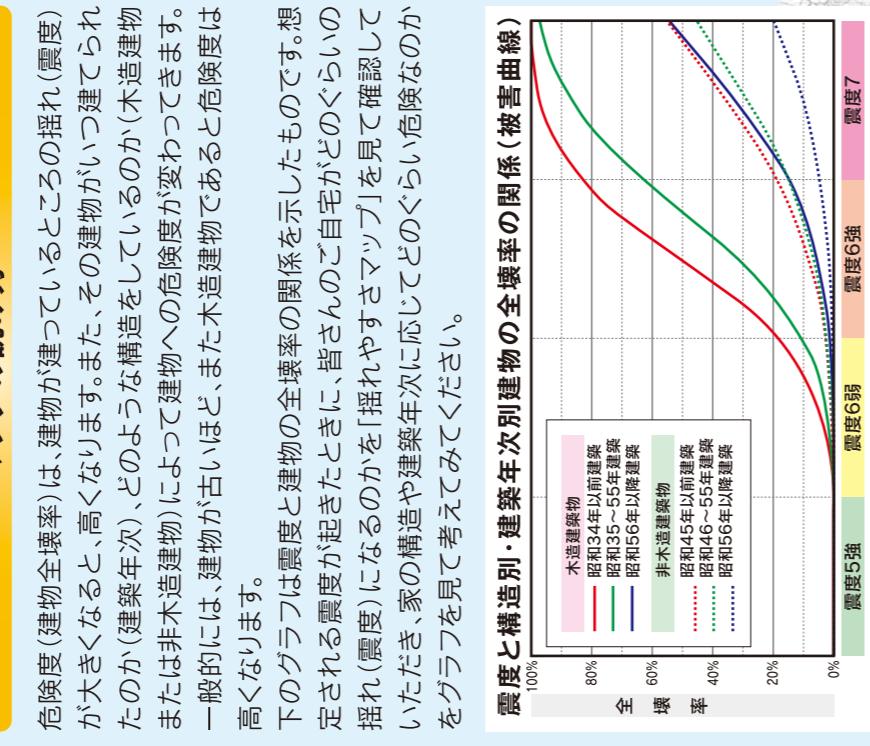


地震ハザードマップ<地域の危険度マップ>

大朱野地區

「地域の危険度マップ」とは、「揺れやすさマップ」に示されている揺れの強さになつた場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表したものであります。今回危険度を建物が全壊する確率(建物全壊率)で表しており、危険度の数値が大きくなるほど被害は大きくなります。ご自宅の周辺や普段からよく行くところ、よく通るところなどについて、安全性を確認してみてください。なお、このマップでは建物が地図上に存在するメッシュにのみ

ナニガラ詩集



耐震診断について

住宅の耐震性について

一般に、地震が発生した場合の建築物の全壊率は古い建築物ほど高くなりますが、木造住宅ではその傾向が特に目立ちます。古い耐震基準の時期(昭和56年以前)に建てられた家や、壁が少ないので耐震性が低くなっていますので、心当たりのある方は専門家による耐震診断を受けることをお勧めいたします。



耐震診断とは

住まいへの耐震性がこの「住まい診断」。いわば人間の「健 康診断」。地盤の状況や基礎の状態、 上部構造として、壁の強さや配置、 接合部の状況、劣化状況等を調査。 上部構造は評点化されて、耐震改修 工事の必要性があるかを判定しま す。「耐震診断」には、一般の方が自 己診断できる「誰でもできるわが家 の耐震診断」と、建築士などの専門 家が行う「一般診断法」と「精密診断 法」があります。

This map highlights the Ōmihachiman area (大矢野地区) in Ōmihachiman City (宇城市). Key locations marked include:

- ① 登立小学校グラウンド (Tōtachi Elementary School Ground)
- ② 市役所大矢野出張所 (Ōmihachiman City Office Tōtachi Sub-Office)
- ③ 大矢野中学校グラウンド (Ōmihachiman Middle School Ground)
- ④ 湯島公園 (Yushima Park)
- ⑤ 湯島小中学校グラウンド (Yushima Elementary and Middle School Ground)
- みすみインターチェンジ (Misumi Interchange)
- 登立インターチェンジ (Tōtachi Interchange)
- 国道57号 (National Route 57)
- 国道365号 (National Route 365)

危険度(建物全壊率)は、建物が建っているところの揺れ(震度)が大きくなると、高くなります。また、その建物がいつ建てられたのか(建築年次)、どのような構造をしているのか(木造建物または非木造建物)によって建物への危険度が変わります。

一般的には、建物が古いほど、また木造建物であると危険度は高くなります。
下のグラフは震度と建物の全壊率の関係を示したもののです。想定される震度が起きたときに、皆さんのご自宅がどのぐらいの揺れ（震度）になるのかを「揺れやすさマップ」を見て確認していただき、家の構造や建築年次に応じてどのぐらい危険なのか

をグラフを見て考えてみてください。

震度と構造別・建築年次別建物の全壊率の関係(被害曲線)

震度 7
震度6強
震度6弱
震度5強
震度5弱

全壊率 (%)

震度	木造建築物 (昭和34年以前建築)	木造建築物 (昭和35～55年建築)	木造建築物 (昭和56年以降建築)	非木造建築物 (昭和45年以前建築)	非木造建築物 (昭和46～55年建築)	非木造建築物 (昭和56年以降建築)
7	100%	~80%	~60%	~40%	~20%	~10%
6.5	~80%	~60%	~40%	~30%	~15%	~5%
6.0	~60%	~40%	~25%	~20%	~10%	~5%
5.5	~40%	~25%	~15%	~10%	~5%	~2%
5.0	~25%	~15%	~10%	~5%	~3%	~1%

ゲラウンド

A map of the Matsushima area, showing the coastline and various buildings marked with colored dots (blue, green, yellow) and numbers. Roads are shown as orange lines. A red line highlights a specific path or boundary. Two blue hexagonal signs are present: one labeled '34' and another labeled '207'. A black arrow points from the bottom left towards the center of the map.

This map shows the姬戸 area with various landmarks and safety-related points. Key locations include:

- 市役所 (City Hall) 姫戸統括支所
- 姫戸中学校グラウンド (Kishi Middle School Ground)
- 姫戸小学校グラウンド (Kishi Primary School Ground)
- 消防拠点施設 (Fire Station)
- 姫戸町 (Kishi Town)

Evacuation routes are indicated by green arrows pointing towards姬戸中学校グラウンド (Kishi Middle School Ground). Fire hydrants are marked with red circles containing a white dot. A legend at the top right defines the symbols:

- 指定緊急避難場所 (Designated Emergency Assembly Point)
- 市役所 (City Hall)
- ⊗ 警察署 (Police Station)

ここで表示されている想定率(%)は、揺れや被害が生じた場合になった場合に分布を相対的に評価するマップに用できるグリースペースを指す

国道
有料道

三
田
中
高
校

1:74,000
2km